

静岡県立湖西高等学校

令和3年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 開催日時 令和3年10月21日(木)13:15~15:15

2 開催場所 静岡県立湖西高等学校 会議室

3 出席者 全9名(順不動)

- (1) 鈴木 聖慈 氏 (湖西市教育委員会学校教育課長)
- (2) 山田 哲也 氏 (東海旅客鉄道株式会社鷺津駅長)
- (3) 中島 剛 氏 (豊橋創造大学短期大学部教授)
- (4) 彦坂 昇 氏 (フライムアースEVインナー株式会社 総務人事本部本部長)
- (5) 飯田 文雄 氏 (湖西市表鷺津自治会長)
- (6) 豊田 雅之 氏 (湖西高等学校 PTA 会長)
- (7) 小林 孝誌 (校長)
- (8) 渡邊 二三彦 (副校長)
- (9) 川村 勇夫 (教頭)
- (10) 袴田 早苗 (事務長)

4 次 第

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ 詳細は5議事録(1)参照
- (3) 自己紹介 詳細は3出席者参照
- (4) 授業参観 詳細は5時間目の授業を参観
- (5) グローカルハイスクール事業について 詳細は5議事録(2)参照
- (6) 地域連携に関する意見交換 詳細は5議事録(3)(4)参照
- (7) 諸連絡 次回協議会については、学校評価も含めての協議会となる。
2月、できれば2月18日(金)にお願いしたい。(副校長)
- (8) 閉会のことば

5 議事録

(1) 校長あいさつ

- ・今年度、1クラス減で一学年が4クラスになった。それに伴い、教員減となっている。そのため、部活動の顧問の配置が厳しくなり、そのため漕艇部と剣道部の部員募集停止や文化部の統廃合が決まっているのが残念。
- ・2年生の修学旅行が延期となった。3年生については、昨年度行けなかった代わりとして11月に長崎に行く予定である。
- ・部活動については、ようやく平常に戻りつつある。生き生きとした姿が見られてうれしい。
- ・災い転じてで、リモートについては大分先生方に慣れが出てきた。
- ・体育大会がコンパクトになったが、今後それがスタンダードになっていく。
- ・1年生は4月からスタートできたことで、昨年度と比べ順調に生活を送っているように思える。4月にやった初期指導の影響か、皆勤の生徒が多い。
- ・1年生の地元率は高い。1クラス減でも地元から通う生徒が昨年度と変わらないため、地元比率が高くなっているのはうれしい(60%)。鷺津中の生徒が多く、生徒会等活発に活動している。
- ・コミュニティスクールとして指定されており、また県からグローバルスクール、特にローカルの部分で地元密着型の学校として3年間事業を運営していく予定である。そのため、PRを多く行っており、学校キャラクターを通しての活動や湖西高校レポートは同窓会のおかげでオールカラーとなった。また、ウーパールーパーを幼小中等に多く配った。本校HPも大きく変更し、SNSとの連携も行っている。
- ・働き方改革の一環として、4月より個々に早時退勤、9月からは学校一斉に退勤を行っている。
- ・40以上の中学校に職員（事務長も含む）が学校周りを行っている。
- ・陸上部が東海大会出場。そして英語スピーチコンテストでは県大会出場。校外ではサーフィンのプロを目指す生徒、ダンスの生徒がいる。
- ・パソコン部がドローンでの撮影を行った。今後小中等の依頼に応じて撮影を行う。
- ・三味線部と野球部が貢献として表彰されることとなっている。

(2) グローカルハイスクール事業について

○小林校長より本校ランドデザインとグローバルハイスクール概要について説明

- ・オンリーワンハイスクール（グローバル 地元密着型）に申請し、採択された。
湖西市全体で生徒を育てていきたい。事業は3年計画。「湖西検定」については、3年間をかけて完成していきたい。1年目環境面、2年目観光等を研究し、3年目で検定作成を行っていきたい。
- ・来年度湖西市制50周年に向けて参加できるものを探っている。
- ・湖西市立の小中、特別支援学校との連携の準備を進めている。
- ・湖西市少年少女発明クラブでのスタッフとして生徒の派遣
- ・空き教室や空きスペースを利用しての地域との交流
- ・コロナのため、まだ大きくは動けていないが、1年目の基礎作りを着々と進めている。
- ・本校の取り組みが具体的だということで、県からの視察が来校する予定。

(3) 意見交換(委員より)

Q : 学校から地域へのグローバルハイスクールを行う旨の計画等情報はどれだけ伝えているか？
(彦坂委員)

A : HPや湖西高校レポートで伝えているが、その他方法があれば教えていただきたい(校長)

- ・湖西高校レポートにあわせてトピックスをつける、企業に勤めるOB OG等に伝えて情報を共有するというものいいのではないか。(彦坂委員)
- ・小中学校側として、この事業が周知されていない。学校としての方針や方向性をわかっていると、事業がスムーズに進んでいくのではないか。なぜカレンダーを湖西高校が作るのかをわかっていない学校が多く、またコロナの影響もあり、学校の負担も大きい。(鈴木委員)

Q : 興味深く聞かせてもらっている。空き教室を利用したコミュニティルームの具体的アイデアはあるか？(山田委員)

A : 玄関入り口のところの部屋を用意している。そこに地域の情報を掲示し、地域のことを知った上で、その場所で交流したいと考えている。生徒の地域のお店紹介は楽しんでやっているように見えた。(副校長)

Q : 授業外の活動は生徒に負担になるのではないか。今までそういった例はあったか？(中島委員)

A : 浜名湖クリーン作戦等では部活単位で参加していた。学校のカリキュラムとしての活動はまだない。今後は学校でのカリキュラムと連携してしてもらいたい。(校長)

- ・自治会の連携として、理想のまちづくりと防災と挙げてくれていてありがたい。秋祭りを通して、年代を超えての交流を行っているが、ここ2年コロナの影響で開催できていないのが残念だ。カレンダーについては、生徒が撮った写真を使うなど、生徒が制作にかかわる方がいいと思う。(飯田委員)
- ・生徒数減による部活動の統廃合については、学校の売りの部分である部活動の魅力が少なくなってしまうのではないかと心配している。コロナのせいで部活動の活動の場が少なくなっている。できれば市歌を小中高で一緒に演奏する等の企画等、学校主導の交流の場・イベントを企画してほしい。(豊田委員)
- ・湖西市歌については、市から相談を受け、連携できる場を模索しているところである。
(鈴木委員)
- ・高校から中学へ演奏の指導に行く等の機会があれば、交流のきっかけになると思う。
(豊田委員)
- ・そのようなイベントが市の計画に入れば、地元での地域貢献等ができるかもしれない。
(彦坂委員)

Q：市内の学校にグローバルの周知がされていないとのことであるが、周知できる場があるか？（校長）

A：校長が集まる会等で校長にお越しいただき、説明をいただくというのも可能性としてあるかもしれない。（鈴木委員）

・企業に関していえば、湖西市商工会の中小企業ガイダンスがある。そのような場で説明するのも手かもしれない。（彦坂委員）

(4) その他意見交換(学校側からの質問に委員が回答)

Q：私学への進学意識が増えている。公立の魅力化について、何かアドバイスを頂きたい。（副校長）

A：環境（5階からの景色、グランド広い、静か）が素晴らしい、そして座学以外の授業の魅力がある。自主性を持った生徒を育てるために考えてもらえれば・・・。（豊田委員）

私学志向の高まりは、私学教員の危機感やカリキュラムの魅力から。一朝一夕に何かとは言えない。（飯田委員）

自分の経験からすると、先生同士の交流をして、学校の魅力を伝えるのも手である。（中島委員）

多くの生徒が駅を利用してきている。生徒が活用してくれていると駅の雰囲気明るくなるような気がする。駅の階段にたまったことがあり、指導をしてもらったが、すぐに治った、引き続き指導をお願いしてもらいたい。（山田委員）

湖西高校に行けば「何ができる」というものが欲しい。湖西高校に行かなければできないことを魅力としていくのがいいと思う。私学の勢いは確かにすごい。令和2年の湖西市300人の赤ちゃん、湖西市内小学1年生430人 6年後130人減ってしまう。となると1クラスあたり20人を割る可能性がある学校がある。小中学校も頑張っていないといけない。子供目線で湖西高校へ行く理由を見つけて「来たい」と思わせてもらいたい。（鈴木委員）

少子化の中、企業目線からすると人材育成をお願いしたい。「湖西高校に行かなければ〇〇できない」をこれから作ってってもらいたい。（彦坂委員）

・湖西市内の小中高カレンダーの作成を計画中である。A3の2つ折りで小学校6校、中学校5校、高校特支学校3校の計14校の情報及び湖西市役所、新居町・湖西市商工会の情報を入れたカレンダーを作成するよう調整しているところである。（教頭）